

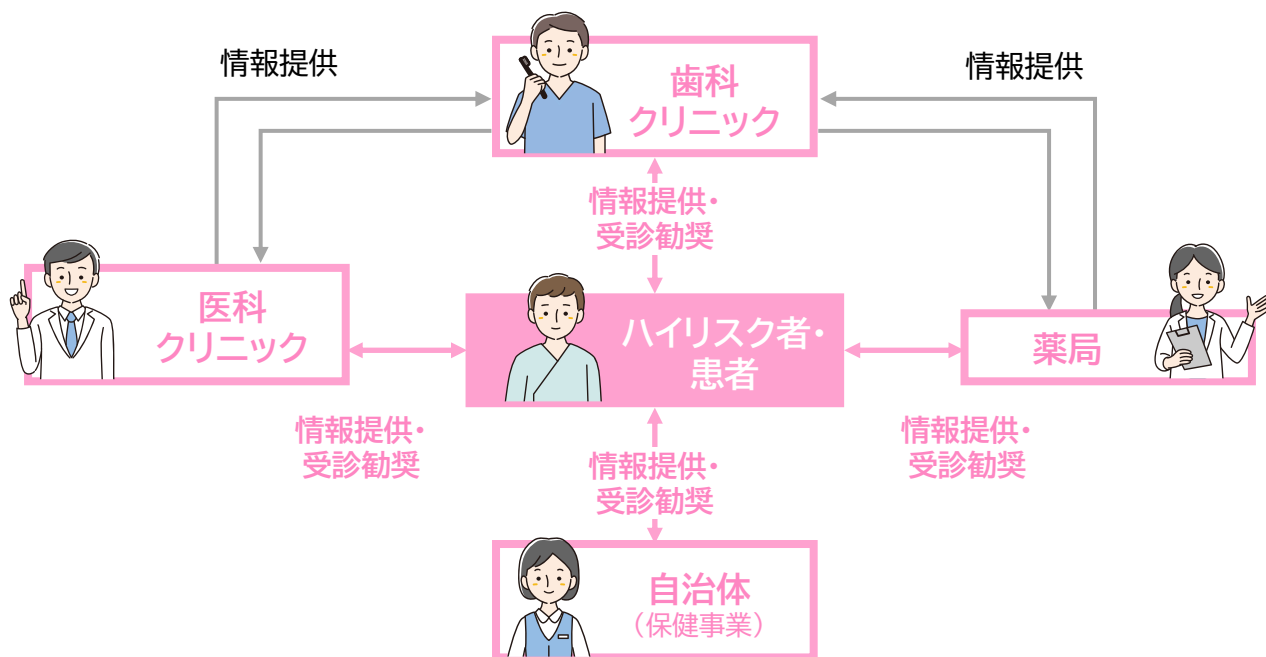
医歯薬連携のための クイックマニュアル

薬局編



医歯薬連携により糖尿病・歯周病の重症化を予防

歯周病または糖尿病リスクが高いと判断された患者様に対して、医歯薬・自治体が連携してアプローチすることで早期かつ多面的な介入ができるほか、地域で見守られているという安心感や信頼感を患者様に与えることができます。



医歯薬連携プログラムにおける薬剤師の役割

- 薬局では、内科や歯科に受診している患者以外の、歯周病または糖尿病リスクが高い患者へアプローチができます。
- 薬局が参加することで、内科や歯科クリニックのハブとなる立ち位置で連携を進めることができます。長期的に近隣の内科や歯科クリニックと顔が見える関係となることにつながります。
- 薬局は患者とコンタクトをする機会が多いため、薬剤師は患者にとって相談しやすい身近な医療従事者です。医歯薬連携プログラムを患者とのコミュニケーションのきっかけの一つとして活用することで、今後の患者との関係性構築につながる可能性があります。

STEP
1

プログラム対象者の抽出

40～74歳、糖尿病の薬を処方されている方および検査結果を確認でき、結果が「HbA1cが5.6%以上」または「空腹時血糖が100mg/dL以上」の方を対象者として抽出



チェックポイント

検査結果は、オンライン資格確認等システムの情報や持参されている特定健診の結果等を確認しましょう。

該当
しない

通常の処方・説明を実施

STEP
2

歯周病リスク者の抽出

チェックリストに**1つでも該当した人**を歯周病リスクがある患者として抽出



チェックポイント

喫煙は歯周病のリスクを高めるといわれています。

歯周病のメンテナンスには、3か月に一回程度の歯科受診が推奨されています。

該当
しない

通常の処方・説明を実施

糖尿病と歯周病に関するチェックリスト

薬局

本チェックリストは「40歳以上75歳未満の方」かつ「糖尿病の薬を処方されている方」のうち「歯科クリニックで歯科クリニックへの受診勧奨を受けていない方」全員にお配りしています。以下の説明をごいただいた上で、①～③の質問にお答えいただき、薬剤師にご提示ください。

《歯周病と糖尿病の関係》

歯周病は糖尿病の合併症の1つであり、また、糖尿病は歯周病の2大危険因子の1つであることが知られています。両者は密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されています。



◆お名前

◆ご質問

①現在、タバコを吸っていますか。

はい ・ いいえ

②リーフレットの5ページにある項目のうち、3個以上に当てはまりますか。

はい ・ いいえ

③歯科クリニックに定期的に（3か月に1回程度）受診していますか。

いいえ ・ はい

本チェックリストは愛知県の「令和4年度歯周病診療による糖尿病リスク低減モデル事業」の一環で作成したものです。

チェックポイント

その他、歯ぎしり、歯並び・噛み合わせの悪さ、口呼吸、ストレスなども歯周病のリスク因子として知られています。

STEP
3

情報提供

歯周病リスクがある患者には、
リーフレットを用いた情報提供を実施



チェックポイント

糖尿病と歯周病の関係
の説明や、歯周病リスク
チェックの活用を推奨く
ださい。

ご存知ですか？
糖尿病と歯周病との関係

- 歯周病は糖尿病の慢性合併症のひとつです。
- 歯周病の治療を行うと血糖コントロールが改善し、糖尿病重症化の予防に繋がる可能性があります。
- 糖尿病の治療をされている方は、ぜひ一度かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師にご相談ください！

公益社団法人 愛知県医師会 一般社団法人 愛知県歯科医師会 一般社団法人 愛知県薬剤師会

愛知県

STEP
4

歯科への受診勧奨

必要な患者には歯科クリニックへの受診
勧奨を実施

実施の結果の記録、再度来院した患者の
受診状況の確認



チェックポイント

受診勧奨には、可能な範
囲で情報提供書を歯科
クリニックに持参いた
だく、糖尿病連携手帳を歯
科クリニックへ持参す
ることのご案内などをしま
しょう。

様式3(薬局→歯科) 情報提供書 令和 年 月 日

糖尿病・口腔外科
(診療情報を提供する保険医療機関名)

担当医 先生御前下

住所 TEL

患者氏名 性別 男 ・ 女

患者住所 電話番号

生年月日 年 月 日 (歳) 職業

紹介目的
上記情報は当薬局にて重みをお渡ししております。糖尿病と診断されており(糖尿病が疑われ)歯周病罹患が疑われます。ご商量の上、ご指導を賜いますようお願い申し上げます。

☐ 糖尿病療養指導中(糖尿病指導開始日: 年 月 日)

☐ 糖尿病予備群(検査結果未付)

検査結果	現在の処方
※検査結果を確認した場合のみ記入	☐ お薬手帳の有無 (あり・なし)
日付	☐ 詳細 ※ありの場合は省略可
空腹時血糖 (mg/dl)	
随時血糖 (mg/dl)	
HbA1c (%)	
検査方法	☐ 特記事項 (歯科での薬剤処方(抗生剤等によるアレルギー反応に注意))
1.オンライン血糖確認の情報	
2.患者の持参した検査結果	
3.その他	

備考 ※歯が脱落している、かみ合わせに問題があるなど、口内に関する情報があれば記入

※2024.12 愛知県における愛知歯薬連携ヘルスアップ支援事業(歯周病連携による糖尿病重症化予防事業)作成様式
(公)愛知県医師会・(一社)愛知県歯科医師会・(一社)愛知県薬剤師会 監修

医歯薬連携プログラムの効果

令和3年度事業では、**6地域95の医療機関**がプログラムに参加しました。
2.5か月間の試行期間中、**約7,500名のプログラム対象**のうち、
約6,200名にリーフレットによる情報提供を行い、また**約2,000名に受診勧奨**を実施しました。

参加医療機関へのアンケートの結果

患者の糖尿病と歯周病の関係性について理解の促進につながっただけでなく、参加機関が医歯薬連携の重要性を再確認する機会となった

今後も医歯薬連携を進めていくべきである（回答した医療機関の9割以上）



歯周病治療の効果

歯周病による炎症部分の広がり(面積)は、すべての歯の総和にすると約72cm²となり、これは手のひらとほぼ同サイズになります。

糖尿病と歯周病のある患者に歯周病治療を実施すると、PISA(歯周病ポケット炎症面積)に加え、HbA1cの数値が低下するといった効果があらわれます。

糖尿病＋歯周炎のある患者（40代）の歯周病治療例



歯周病治療前
歯科初診時

歯周ポケット平均	4.9 mm (炎症 ++)
PISA (歯周ポケット炎症面積)	2291 mm ²
HbA1c	7.9 %
内服薬	ビオグリタゾン (インスリン抵抗性改善薬) トラゼンタ (DPP-4阻害薬) セイブル (αグリコシターゼ阻害薬) アムロジピン (Ca拮抗薬) など



歯周病治療後
メインテナンス時

歯周ポケット平均	2.5 mm (炎症 →)
PISA (歯周ポケット炎症面積)	91 mm ²
HbA1c	6.9 % (1.0 % ↓)
内服薬	トラゼンタ (DPP-4阻害薬) ボグリボース (αグリコシターゼ阻害薬) ミチグリニド (速効型インスリン分泌促進薬) アムロジピン (Ca拮抗薬) など

(愛知学院大学歯学部 菊池 毅 准教授 より提供)

リーフレットより一部抜粋

医歯薬連携プログラムの取り組み事例

ツジ調剤薬局丸の内店（愛知県清須市）



管理薬剤師
宮田 壮一 先生

本プログラム実施の際の工夫点

本事業の対象者は40～74歳かつ糖尿病薬が処方されている方だったため、事務員が薬歴簿から事前に対象者を抽出し、来局時に迅速に対応できるよう準備をしました。また、患者様に目につくような箇所にポスターを貼りました。

本プログラムの感想

本事業のツールは簡潔であったため、スムーズに取り組むことができました。丁寧に事業の主旨を患者様にお伝えすると、ほとんどの方がお答えくださり、啓蒙活動がスムーズに行うことができました。実際、かかりつけの歯科医院がある方が大半ではありますが、調子が悪い時にしか通院されない方が多いという状況ですので、患者への啓蒙活動を継続することが重要だと感じました。

今後に向けて

医歯薬連携事業は継続してこそ徐々に結果が出てくる取り組みとされるので、連携を継続していくことが重要と考えております。また、患者の意識向上のためには、自治体がもっと前面に出て、歯周病と糖尿病の関連性や本事業の内容を伝え、医科、歯科への受診を促す広報に取り組むことが有効と考えます。

東部調剤薬局（愛知県豊橋市）



薬剤師
井上 玲子 先生

本プログラム実施の際の工夫点

患者それぞれの状況を見て、受診勧奨の対応を変更しました。急いでいる、話をしたくない方にはリーフレットを薬と一緒に封入するのみとし、後日フォローを行いました。待ち時間にポスターを見ていただき、その後声をかけてくれた方には特に時間をかけて説明しました。

また、リーフレットの説明時は患者によって説明方法を工夫しました。若い方へは、「歯周病治療の効果(p3)」や「歯周病と様々な病気との関連(p4)」を見せると興味を持ってもらえました。一方、糖尿病の方へは「かかりつけへの相談(p8)」で糖尿病連携手帳を歯医者にも見せるよう促し、歯周病治療の効果(p3)のHbA1c減少効果などを説明しました。

本プログラムの感想

最近はマスク着用により歯の話をしていなかったこともあり、本事業を通して患者との会話が広がりました。糖尿病の薬は処方されていないが糖尿病連携手帳を持っている方が数名おり、糖尿病の方には使えない禁忌薬(精神科等)もあるため把握できる良い機会となりました。

今後に向けて

本事業が愛知県の皆様に周知されるようになれば、より連携しやすくなると思います。

医歯薬連携プログラムとは

歯周病と糖尿病の両者が密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されていることから、医歯薬が連携し、糖尿病患者の歯周病リスクを低減することは、糖尿病重症化予防の観点から重要です。

愛知県では、国保ヘルスアップ支援事業の一環で、国保加入者を対象として、愛知県医師会、愛知県歯科医師会、愛知県薬剤師会にご協力いただき、医歯薬連携による糖尿病重症化予防のためのプログラムを開発しました。

地域のかかりつけ医・歯科医・薬剤師、さらには自治体が連携することで、リスクがある患者様に対する早期発見・早期介入につなげることができます。

本事業の詳細、リーフレット、参加医療機関はこちら

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kokuho/ishiyaku8.html>



ご存知ですか？

糖尿病と歯周病との関係

- 歯周病は糖尿病の慢性合併症のひとつです。
- 歯周病の治療を行うと血糖コントロールが改善し、糖尿病重症化の予防に繋がる可能性があります。

糖尿病・歯周病の治療

歯周病の心配がある人は、かかりつけ医やかかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師に相談しましょう。また、自治体の健診も受診しましょう。糖尿病は、医師、歯科医師、薬剤師が連携して治療に取り組むことで重症化を防ぐことができる病気です。

愛知県では、医歯薬連携による糖尿病重症化予防に取り組んでいます

愛知県 公営社団法人 愛知県医師会 一般社団法人 愛知県歯科医師会 一般社団法人 愛知県薬剤師会

医歯薬連携による糖尿病重症化予防モデル事業についてのご案内

保健師の皆様へ、ぜひ本事業の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

医歯薬連携による糖尿病重症化予防モデル事業について

歯周病は糖尿病の合併症の一つであり、また、糖尿病は歯周病と並んで歯周病の2大危険因子の一つであることが知られています。両者は密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されています。

医・歯・薬が連携し、糖尿病患者の歯周病リスクを低減することは、糖尿病重症化予防の観点から重要です。そこで、愛知県では、令和2年度、国保加入者を対象として医歯薬連携による糖尿病重症化予防のためのプログラムを開発しました。令和3年度は、愛知県内の一部の歯科クリニック、歯科クリニック、調剤薬局にて本プログラムの試行を実施しました。

年度は、豊橋市全域の歯科クリニック、歯科クリニック、調剤薬局のご協力を得て本プログラムを実施しています。

また、豊橋市では、特定保健指導対象者のうちHbA1cの値が高い方に対して、本プログラムで作成したリーフレットを用いた情報提供を行うとともに、歯周病リスクが高い方には歯科への受診勧奨を行う取り組みを行っています。

なお、本事業は、愛知県医師会、愛知県歯科医師会、愛知県薬剤師会ならびに各試行地域の医師会・歯科医師会・薬剤師会にもご協力いただきながら進めています。

※各試行市町村：清洲市、小牧市、碧南市、東海市、豊橋市から全55機関が参加。

お問い合わせ先

愛知県国民健康保険課 国保運営グループ